性的な非行をする生徒の指導について
―― 純潔教育カリキュラム作成まで ――

北蒲原郡中条町立中条中学校教諭　大　橋　一　稀

はじめに

青少年の非行は，ここ数年著しく増加するとともに低年令化への傾向を示していることは憂慮すべきことである。

特に中学生・高校生層を中心とする少年の非行の増加がめだち，そのなかに性に関する非行が年々増加していることは見のがすことができない事実である。

この非行を予防し，あるいは早期に発見して適切な措置を講ずることは，最も緊要な課題の一つであると思われる。

当校においても上述の傾向と同じ事態がぼつぼつ発生し，その対策指導を全職員で研究しているが，現在のところこれといった決め手は持ちあわせていない。

この指導には勇気と自信をもって当たらなければならないのであるが指導をあやまるとかえって逆効果をまねく結果となり，取返しのつかない事態が発生することが予想されるので，ややもすると消極的な態度をとりやすい傾向がみられる。その裏を返せば指導に対する研究不足からでているものと考えられる。

このような理由から研究主題として性に関する非行の指導を取りあげ，その研究を試みた。

I 研究のねらい

a　非行の現況を広く各方面に理解せしめるとともに家庭，学校地域社会においてその指導体制の充実をはかる。

b　生活指導の徹底と生徒の非行防止のため，学校における指導体制の充実強化につとめる。

特に中学校においては生活指導専任のカウンセラーの必要性を究明する。

c　既存の青少年団体の協力を求め，健全な青少年育成の計画を樹立し，その推進をはかり，これに必要な指導者の養成を働きかける。

d　家庭における関心を高め問題家庭に対する指導，家庭相談機構の充実，家庭に対する施策などの強化をはかる。

e　青少年に悪影響をおよぼすマスコミ，暴力団，不良等の取りしまりの強化を働きかけ，生活環境の浄化につとめる。

f　この研究を足がかりにして純潔教育カリキュラム作成へ発展させる。

g　全職員の意識をたかめ純潔教育の実施を推進する。

II 少年非行の実態

（新潟県警察本部保安少年課調査資料から）

県下各署で補導された少年の性非行のうちから，強かん，強制わいせつを犯した少年について保安少年課に報告のあったもの。

a　概況

県下各署から強かん，強制わいせつ等による性非行少年として報告されたものは１０３名で，その非行件数は８０件，被害者は８０名となっている，この１０３名を罪種別にみると強かん８２名，強制わいせつ２１名である。

b　学職業別

中学生	２９名	３７.９％
高校生	１０名	６２.１％
一般少年	６４名	

c　年令別

１４才未満	６名
１４～１６才未満	３１名
１６～１８才未満	２３名
１８～２０才未満	４３名

d　原因動機

好奇心から	４６名	４４.７％
映画テレビ等に刺激されて	１６名	１５.５％
わい本わいせつ写真に刺激されて	１１名	１０.７％
酒の勢いから	８名	７.８％
わい談に刺激されて	７名	６.８％
知能が低い	７名	６.８％
おとなの性交場面に刺激されて	３名	２.９％
精神異常	１名	１.０％
女の心変わりを恨んで	１名	１.０％

e　集団非行の状況

非行少年は集団で行なう場合が多い。１０３名のうち集団で行なったものは１６件，３９名（３７.９％）でそのグループの人員の多いのは７人組である。また成人を含めたもの４組あり２人組が８件，３人組が４件，４人組が３件となっている。最近の集団非行の傾向として仲間の１人が顔見知りまたは簡単に話にのってくる婦女子を捜し甘言をもって誘い出して，人けのない場所へ連れて行って集団で犯す場合が多く，犯行にさいしては，おどしたり，なぐったり，手足をおさえて，完全に抵抗

不能にしての悪質な犯行が目立っており，被害者が特に低年齢者の場合は既遂となっている場合が多い。非行の季節はすべて開放的となる7，8月が一番多く，この月を中心とし次第に少なくなっている。

f　被害の状況について

学職業別	学生生徒	37名	46%
	有職者	28名	35%
	無職者	10名	13%
	幼児	5名	6%

学生生徒を学校別にみると

小学生	19名
中学生	14名
高校生	3名
大学生	1名

g　原　因

ひとり遊びをしていたため

甘言にさそわれて

ひとり歩きをしていたため

その他

以上の調査資料について分析考察をしてみると，

加害者については小学生大学生は皆無で中学生29名，高校生10名となっており，中学生が高校生の約3倍の数にのぼっていることがわかる。

年齢については18，19才の少年が最も多く，14，15才の少年がこれに続いていることがわかる。

原因動機については映画，出版物などマスコミの影響によるものが2位を占めておりじゅうぶん考える必要がある，有害環境から少年たちを守ることが急務と考えられる。

近年の非行内容の傾向からみて，大体は予想はしていたものの現実の恐るべき事実を知り，自分たちの地域には少なくともこのようなことはありえないといった簡単な考えはうちすてなければならないと感じた。このほか表面にはでてこない軽度の性的非行は相当あるものと想像できる。

あらためて早急にこれらの非行発生を防ぐ対策を考え，同時に不幸にして発生した場合の取り扱いも考えなければならないことを痛感している。

Ⅲ 実施した調査

1　早熟調査

(新潟県養護教諭部会資料より)

性に関する用語，純潔，月経，子宮，卵巣，こう丸，オナニー，夢精，子どもの生まれるわけ等の用語について，「知っている」「知らない」調査をした結果を考察してみると，知らないと答えたものが多く，男女差を考慮して純潔教育をほどこす必要性が考えられた。

全項目について知っていると答えたものの平均は約20%で，予想されるものより少ない。

項目によって男女差があるが，指導にも男女差をじゅうぶん考慮しなければならないと考えられる。

2　教えてほしいことの調査

調査人員　男子　1,153名　　女子　1,281名

男女交際	874名	36%
子どもが生まれるわけ	486名	20%
月経	403名	17%
恋愛について	339名	14%
結婚について	306名	13%

Ⅳ 性的異常

1　性的悪癖児

幼児自とくは男子よりも女子のほうに多い。これは刺激性の原因が女児の外陰部に生じやすいためと考えられる。

しかし，青年期に入ると男子のほうが女子よりもはるかに自とく癖が多いことは事実であると文献で述べられている。

小・中学生になると，しゅう恥や叱責に結びついて，父母や他人の目にふれる自とくが少なくなるので，数字は少なくても実際ははるかに多いことが予想される。

父母やわれわれ教育者は，幼児のころからの性的遊ぎや悪癖などの経験が，ついには強化，習慣化されて病的な性的悪癖となることがあり，このことが性非行の潜在的原因として，過去の生活史に求められることは，けっしてまれなものでないという理解だけはもっていなければならないと思う。

文献によると，好奇心の強い年齢や，反抗心の強い年齢の子どもは，その叱責や禁止のために一過性にすぎるはずだった性悪癖が，かえって固執される結果にもなることがある。父母が神経質とか，子ども自身がそうである場合，なおさらこのたぐいの逆効果現象が生じやすいと述べているが，大いに注目すべきことである。

治療方針としていろいろ述べられているが，それをまとめてみると，

a　炎症や寄生虫の害をとりのぞく。

b　悪い教唆をする同年ないしは年長の者を遠ざける。

c　医師の暗示。

d　適度な叱責や処罰。

e　好奇心や注意をほかのものに転じうるような玩具等を与える。

以上はあくまで青年少児の治療であって，年長児の対策としては叱責や暗示はかえって逆効果を生じやすく処罰もよほど巧みに行なわれなければかえって害のあることがあり，それよりも適切な知識を与え，より望ましい人生観をはぐくむことであり，また，正しい性教育をも加味した科学的説得，さらに性的悪癖というくだらないものよりも，もう少し興味深くすぐれた対象が世の中にあるということを教えて，個人生活を高める情操教育が，悪癖をなおし，あるいは軽減する基本であることをわすれてはならない。

2　性の異常

性欲のあらわれというものは，他の欲求のようにあらわに人目につかないのが普通であるが，性の異常を，自分がその異常性のために苦しむか，まわりの人々が，性的異常者のために困らされるかという両面から見ることができる。

自分が苦しんでいるものというのは，性の異常性を自分で知っていて，それがどうにもならないもので，このなかには，はっきりした器質的な異常があるものや，全くなんの異常もないのに自分ひとりで異常だと決めこんで悩んでいるものもある。

自分ひとりで異常だと決めているものには，青年期の自意識過剰と劣等感によるものや，ある種のノイローゼの症状によるもの，なかには精神病的な妄想からおこっているものもある。

周囲のものを困らせるものには，露出症，幼児かん，自慰，獣かん，近親かん，窃視症，窃盗，サディズム，マゾヒズム，同性愛などをもちながら，自分では少しもその異常性を改めようともしないものがある。

心理学的にも医学的にも診断してみて，性の異常という判定が出た場合は，もはやわれわれの手ではいかんともしがたく，専門医にその治療をまかせるべく手続きを早急にとるのがよいであろう。

V 性の指導について

1　性行動発生段階

人間の性的な感覚は思春期に入って始めてあらわれるものではなく，それに先だってぼく然とした異性に対する意識，あるいは関心としてあらわれてくる。思春期はそれまで不活動的な状態にとどまっていた生殖せんの組織が急速に活動増殖して，生殖細胞（女性は卵子，男性では精子）が形成され，それが体外に排出されて個体が生殖可能の状態にはいる時期である。

男性は女性を，女性は男性をぼく然と意識し，それが，さらに具体的に発達して異性にふれたいという欲求になってあらわれる。これは異性接触欲とよばれ，概して男性より女性の方に強い。

次いで性行動を支配する要素として，腥脹（しゅちょう）消失欲があらわれる。急激に形成される生殖細胞，あるいは性付属せんから作られる分泌（ぶんぴ）物が多量に蓄積されるため，これを体外へ放出して，その圧迫感から開放されたいという欲求である。この欲求は大体女性で弱く男性で特に強い。

これら二つの欲求は性衝動を形づくる二つの要素として，最初はかなり独立してあらわれてくるが，やがて時間がたつにつれて結合統一して，異性にふれ性行動を行ないたいという欲求，すなわち性交欲に発達する。つまり人間の性衝動として，性交欲が究極の，そして最も正常な欲求である。

2　性について

性的非行の防止，治療　等を考えるとき，少なくとも男女の

a　性感初発

b　オナニー

c　接触欲

d　性交欲と性交経験

e　性交未経験者の心的状態

以上の5項目はじゅうぶん研究しなければならないと考えられるが，紙面の都合で省略することにする。

3　早期発見の手がかり

労を惜しんで非行児を簡単に，しかも的確に発見できる方法はない。一人一人の教師が毎日の教育実践をとおして，児童生徒や親との間に，愛情と信頼と尊敬とで結ばれた人間関係を確立し，彼らを理解しようと真けんに努力する営みのなかで，それははじめて可能となる。

◎学校においては

a　新旧担任教師の連絡会

　知能や学業について

　性格行動面について

　健康について

　出席状況について

　家庭環境について

b　身体検査

c　心理学的検査

　知能テスト

　性格テスト

　学力テスト

d　その他の調査

　興味　　趣味　　教科のすききらい　　進路

　交友関係　　家庭環境

e　日常の配慮や作品による児童理解

f　面接による児童理解

g　家庭との連絡

◎家庭においては

a　服装

b　帰宅時間

c　父母の知らない持物

d　金銭の使い方

e　学習の状態

f　外泊

g　友人の出入り

4　治　　療

原因の調査

家庭的原因

○放任　○貧困　○欠損家庭　○無理解

特に放任については

○両親共かせぎ　○全く無関心

○職業に熱中して　○生活に追われて

○父母の知能が低い　○本人をもてあまして

○父出かせぎ　○農繁期

○父病気　○下宿

社会的原因

○悪友の感化

悪友に誘われて

グループ的ふん囲気から

悪友に認めてもらうため

素行不良者との交際

本人自身によるもの

○好奇心　○性癖　○えん恨

○酒の勢いで

以上のような原因をじゅうぶん追究し，それぞれに適した治療法を考えなければならない。

Ⅵ 性教育カリキユラムの作成について

1　中条町社会環境

中条町は昭和３１年に隣村乙村と合併，人口約２２,０００人の町となったが，依然農村的生活環境を脱することができず，消費経済的な生産構造で自然のふところに抱かれてきた平穏無事な町であったが，高度な発達を遂げつつある社会の現状に照らし，町の発展のため時代に即応する総合開発の新しい町づくりが企画されつつある。また，天然ガスの発掘によって，３４年春協和ガス化学ＫＫ，３６年倉敷レイヨンＫＫ，３７年緑川化成の誘致をみるにいたり，６５万平方米の敷地に近代工場群の出現を見るにいたった。こうした第２次産業の誘致に伴っておこる人口の増加は必至でその移動も激しく，したがって従来の静かな環境にあった青少年の意識も必然的に変動するところとなり，この環境の変化を感受し，善悪に対する感動のはげしさも加えて，一部心ない人たちの言動や態度にまどわされる面もなきにしもあらずで，今後じゅうぶん注意して青少年をみまもり指導していく必要を強く感じている。

2　純潔教育について

人と人との関係を説く人倫道徳は，今も昔も変わりなく尊重されるが，同じく人と人との関係である男女の関係を論ずるのは，けがらわしいとか下品だとか慎しみがたりないといわれるむきもあるが戦後性道徳の混乱した現実に直面し，性非行も年々多くなってきている今日，つくづく純潔教育の必要性を痛感し，あえてこの研究にとりくんだ次第である。

純潔教育の実施は，かえって眠れる子をゆり起こすようなものと心配する者もあるが，子どもたちは本当に眠っているだろうか，学校教育の過程を眠り続けてすごすとは考えられない。

彼らの性環境と性意識を調査すれば，いかに，いきいきとした目ざめがあるかがわかる。

もし，子どもがおそろしく長い眠りを続けるならば，そろそろゆり起こす必要がおこってくるし，その子どもをそのまま，ほうっておくことが幸福だとは考えられない。

円満な人格をそなえた男性と女性にするには，長い眠りを続けさせるのが最上だとはどうしても考えられない。

性環境は実に複雑になってきたし，突然目を覚ましたのでは，おそらく目まいがして卒倒するであろう。

そこで適当な時期にゆっくり目を覚まさせるのが教育であり，ゆり起こすにしても，そのゆすり方に気をつけて起こすのが教育の仕事であろう。

性環境が開放的ななかで，子どもたちはどのようにして性意識を高めているかを知ると，とてもほうっておくことはできない。大いに指導しなければ，教師の責任が果たせないと強く感じるわけである。

何かと手をかけて子どもを育てているわれわれも，性に関係ある事がらはそっとしておくことがほとんどである。これはおかしなことで子どもたちを片めくらにせよというに等しい。目を覚ましてもめくらにしておけといっているようなもので，めくらがめあきになるという論法は，おおいに考えなおさなければならない。

純潔教育の重要性はわかっているが，実際の指導は自分にはやれない。専門家にやってもらったほうがよいという消極的な態度になりやすい。ここで考えてみなければならないことは，専門家とはだれ

であるか，医者，特定の教師，自分にはできないからだれかに頼もうと逃げ腰になる前に，考えなければならないことがある。子どもをあずかり，これを教育している専門家は教師であり，自身の最も尊い仕事がそこにあり，人間を人間にまで育てようとして日夜その仕事に取組んで悩んでいる専門家の一人が自分であることを。

先生と呼ばれる教育者は，このことを忘れてはいけないと思う。人間を人間にまで育てるに欠くことのできない純潔指導ができないとはいっておれない。しつけや道徳に関することは，みんなやっているのだからなおさらである。自分の担当教科，特別教育活動を通じて，人間教育をしているが，そのなかに純潔教育があることを忘れず，自分にはやれないなどと弱音を吐かずに勇敢に取組んでいかなければならないと考える。

3　純潔教育カリキュラム作成のための基礎調査とその考察

性の問題は，人間生活のあらゆる場面に関連した重要な，かつ基本的な問題である。それにもかかわらず，驚異的な発達をみているマスコミの中に，子どもがおとなと同一条件でほうり出されていることは，そこに青少年たちをゆがんだ方向に走らせる原因の一つがある。

文部省は純潔教育に関するテキストブックを出したが，その対象は父兄や一般の婦人であって，学校教育における指導書ではない。全国的にみても，ごくわずかで大部分の学校は必要性を認めながらその指導の困難さに問題を残し断片的に指導しているのが現実で，これでもよい方である。

われわれは，計画的，意図的に行なわれる必要性を痛感し，本校におけるカリキュラムを作り，指導者のための諸資料を編集することの計画をたててみた。

幸い本校では，純潔教育研究小委員会が特設され数回の会合をもち，具体的に一歩をふみだした。

4　基礎的資料としての調査

純潔教育カリキュラム作成にあたり

a　純潔教育について学校と家庭の考え方をは握する。

b　純潔教育がどの程度にどのような考え方で行なわれているのか，その実態をは握する。

調査の種類として

a　学校調査

b　家庭調査

上の2種類の調査を実施し研究小委員会で分析考察を試みた結果本校の実態に即したカリキュラムの作成へと現在仕事が進んでいる。（調査内容については紙面の都合で省略する）

各学年カリキュラム（試案）

（第1学年）

単元名	主題	性別／時間	学習事項	
おとなへのみち	男子と女子のちがい	男女 2	○男女の役割	社会生活・家庭生活
			○身体的相違	
			○精神的相違	情緒的差・性格的差・能力的差・行動的差
			○男子と女子の美点	好意をもたれる人・悪意をもたれる人
	生まれかわる心身	男子 2	○二次性徴の諸現象について	
			○生理現象	身体的変化・精神的変化 ホルモンの働き・夢精・精子
			○二次性徴が意味すること	個人差・情緒の変わり方 生活環境
	女性の誇り	女子 2	○月経についての理解程度	知識を得た経路
			○女性特有の諸器官	
			○月経現象について	女性ホルモン・月経の型 周期
			○月経と母性機能の関係	月経と姙娠
			○月経前後における精神状態	感情・情緒（個人差）
			○月経期間の症状と処置	
			○女性の使命と誇り	

（第2学年）

単元名	主題	性別／時間	学習事項	
人生の	美しい交際	男女 2	○男女共学の歴史と意義	戦前と戦後
			○協力の姿	学校生活
			○交際のあり方	個人・グループ・心がけるべき礼儀
			○責任と自由	行動の限界 性的衝動 家庭の承認
			○人類と種族の保持性本能	人間と動物・人間の高等性

協力者	幸福な人生	男女 / 2	○結婚の意義	人類の結婚制度と意義
				子孫に対する責任
				法律の問題
			○正常な結婚を妨げるもの	性病・性的神経症
			○健全な家庭生活	社会への貢献・愛情と協力

（第3学年）

単元名	主題	性別 / 時間	学習事項	
あかるい社会への道	マスコミと退廃思想文化	男女 / 2	○退廃的な傾向	文化面・思潮面・生活面
			○享楽的風潮	マスコミ文化の批判
				価値ある文化の選択
			○健全な社会の建設	認識と自覚・建設的な批判
	誤まった性	男女 / 2	○性的犯罪について	少年法・刑法・各条例
			○犯罪統計と犯行原因	家庭的原因・性格的原因
				社会的原因・病理的原因
			○性的言動への反省	人間尊重・人格
			○性的被害の防止	服装
				態度
				勇気
				判断

前述の各学年のカリキュラム原案は，あくまでも試案であって今後2次3次の調査を実施して，じゅうぶん検討を加え，試案を修正し，本校の実態に即した純潔教育カリキュラム作成を願っている。

むすび

前述の研究を足がかりにして，今後もっともっと深く研究を推し進め，1日も早く本格的な純潔教育実施を心から願っている次第である。上述の研究と並行させ，不幸にして非行が発生した場合の治療法についても，絶えまない研究を続けていくつもりである。

参考文献

純潔教育	定方亀代　他二名	明治図書
性と心理と教育	望月　衛	壮文社
異常心理学	加藤正明	光文社
問題児	東京教育大学	金子書房
現代学生の性行動	朝山新一	臼井書房
純潔教育	宇都宮市教育委員会	
青年心理		金子書房
児童心理		金子書房